OIDE 長姫 Topics

2026 Ene-1 MOTEGI GP
原動機部 2部門で優勝

2026年(令和8年) 8月1日 土曜日 南信州新聞

もてぎ大会2部門で優勝

材料制限の部は2度目で栄冠

飯田OIDE長姫高校原動機部が、7月25日に栃木県茂木町の「モビリティリゾートもてぎ」(3・6㌔)で開催された「2026 Ene-1 MOTEGI GP」に出場し、電気自動車競技の高校生部門を連覇、マシンの製作材料に制限のあるカテゴリーで初の総合優勝を果たした。

充電式単3乾電池40本を動力源とする車両を操り、3回のタイムアタックの合計タイムで順位を競う全国大会。今年は各部門に計53台が出場した。

同校の原動機部は、一般7、大学高専5、高校9、中学1の計22台がエントリーした製作材料制限なしのカテゴリーに2台を持ち込み、高校部門優勝(総合3位)と高校部門4位(同6位)の成績を挙げた。優勝マシンのドライバーを務めた2年の仲田晴哉さん(17)は「連覇できた達成感がある。表彰台の真ん中に立ててうれしかった」と振り返った。

製作材料にカーボンを禁止とするカテゴリー(一般5、大学高専5、高校17、中学3の計31台)には木製のマシンで臨み、2度目の挑戦で栄冠を手にした。

同大会で初めてドライバーを務めた2年の東海宗佑さん(16)は「(仲間から)完走を目標に楽しんで走ってきて」と送り出されたが、終わってみれば3走すべてで安定した走行を披露し、総合優勝した。自ら手掛けてきたマシンだったこともあり、優勝の喜びはひとしおで「先生とコースを確認しながら作戦を立てた。描いた通りに走ることができた」と笑顔で振り返った。

この大会を最後に3年生は引退する。熊谷連太部長(18)は「良い形で引き継げることはうれしい。次の大阪での大会は1、2年だけで臨むが、引き継ぎ後は何かとかみ合わないこともあると思う。連携し協力し合いながら良い成績を挙げてほしい」と後輩にエールを送った。

今後は11月22日に大阪府岸和田市で開かれる「エコデンレース全国大会」に向けて調整していく。

OIDE長姫高 原動機部



もてぎGPで好成績を収めた飯田OIDE長姫高の原動機部

掲載記事提供： (株)南信州新聞社

OIDE 長姫 Topics

夏休みに体験を　地区内の子供たちに

「ミサンガづくりを指導」

2026年(令和8年) 8月7日 金曜日　南信州新聞

鼎地区

夏の体験 一緒に楽しもう

有志が休暇中の居場所づくり

飯田市鼎の有志グループ「あんじゃない会（子どもを見守る会）」は5日までの6日間、地区内の高学年児童や共働き世帯の子どもを対象にした夏休みの居場所づくりイベントを企画した。住民や飲食店、中高生ボランティアらの協力を得て、勉強会のほか風呂敷の使い方、アロマ芳香剤作り、アイシングクッキー作り、水引を使った雑貨作りなどを体験する機会を毎日提供した。

児童館の受け入れ対象にならない高学年児童の保護者から「長期休み中の子どもの居場所がほしい」との要望を受け企画し、今年で2年目。安心して過ごし、楽しんでもらおうと、朝から夕方まで開いた。

5日には会場隣の飲食店「お食事処・夢」の協力を得た料理教室、地域の講師による手品体験会、飯田OIDE長姫高校3年の生徒が企画・指導したミサンガ作りを実施。ミサンガ作りでは3本のしゅう糸を組み合わせ、四つ編みを教わった。

鼎小6年の樋本結衣さん（11）は「高校生にいろいろ教えてもらえて、いい経験になった。完成したミサンガを脚につけて、ミニバスケを頑張りたい」と笑顔で話した。

O長高の大平葵日さん（18）は「子どもたちに教えられることもあり、こちらも勉強になった」と振り返った。

代表の小西盛登さん（72）＝上山＝は「地域の協力を得られたおかげで楽しく過ごせ、保護者にも



高校生の指導でミサンガを作る児童

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

商業科　3年
飯田市　佐藤市長と　リニアも視野に懇談

2026年(令和8年) 8月18日 火曜日 南信州新聞

飯田市長

リニアも視野に懇談

高校生と「ふれあいトーク」

飯田市長と市民が懇談する「ふれあいトーク」の一環で、飯田OIDE長姫高校商業科3年生3人が17日、市役所で佐藤健市長と膝を突き合わせた。

商業科の牧島梨々花さん(17)、熊谷美里さん(18)、北原こみさん(17)が参加した。

地域への理解を深め、活性化や社会貢献できる人材を育む「地域人教育」がきっかけで、4月のプログラムで3人は市長講義を聞く中で市の取り組みに関心や疑問を持ったといい、ふれあいトークを通じてそれぞれの思いを市長に直接ぶつけた。

リニア時代に飯田がどう変化しているかを問い、佐藤市長は「進学や就職などを理由に、住み続けたいけど住み続けられない状況にある」と語った。

リニア開業までに10年以上かかる見通しで、開業までのまちづくりについて佐藤市長は「開業をただ待つことはなく、飯田のいいところを伸ばし、守る。そういった意味でも、この先10年がとても大事になる」と述べた。

若者に望むことを問われたのに対し、佐藤市長は自身の経験を踏まえ「飯田の良いところを見たり、聞いたりし、感じたことを大事にしてほしい」と答えた。

が、リニアによって飯田に住みながら大学へ通い、通勤もできる。リニアはここに住みながら世界で活躍できるツールになる」と展望。4年制大学の空白地帯となっている現状に触れると「リニア開業を視野に、私立のサテライトキャンパスなどを誘致することも今後の活動の中では大事になってくる」と語った。



佐藤市長と懇談する生徒

掲載記事提供：(株)南信州新聞社